



Japan Wildlife Research Center

第2回 鳥獣保護管理のあり方検討小委員会資料

鳥獣捕獲事業の取り組み

一般財団法人 自然環境研究センター
鳥獣被害防止部
部長 黒崎 敏文



1 | 自然環境研究センターの沿革

1978年(昭和53年): 設立(日本野生生物研究センター)

2003年(平成15年): 一般労働者派遣事業許可取得

2006年(平成18年): 小笠原事務所、奄美事務所 開設

2010年(平成22年): 野生鳥獣被害防止事業部 新設

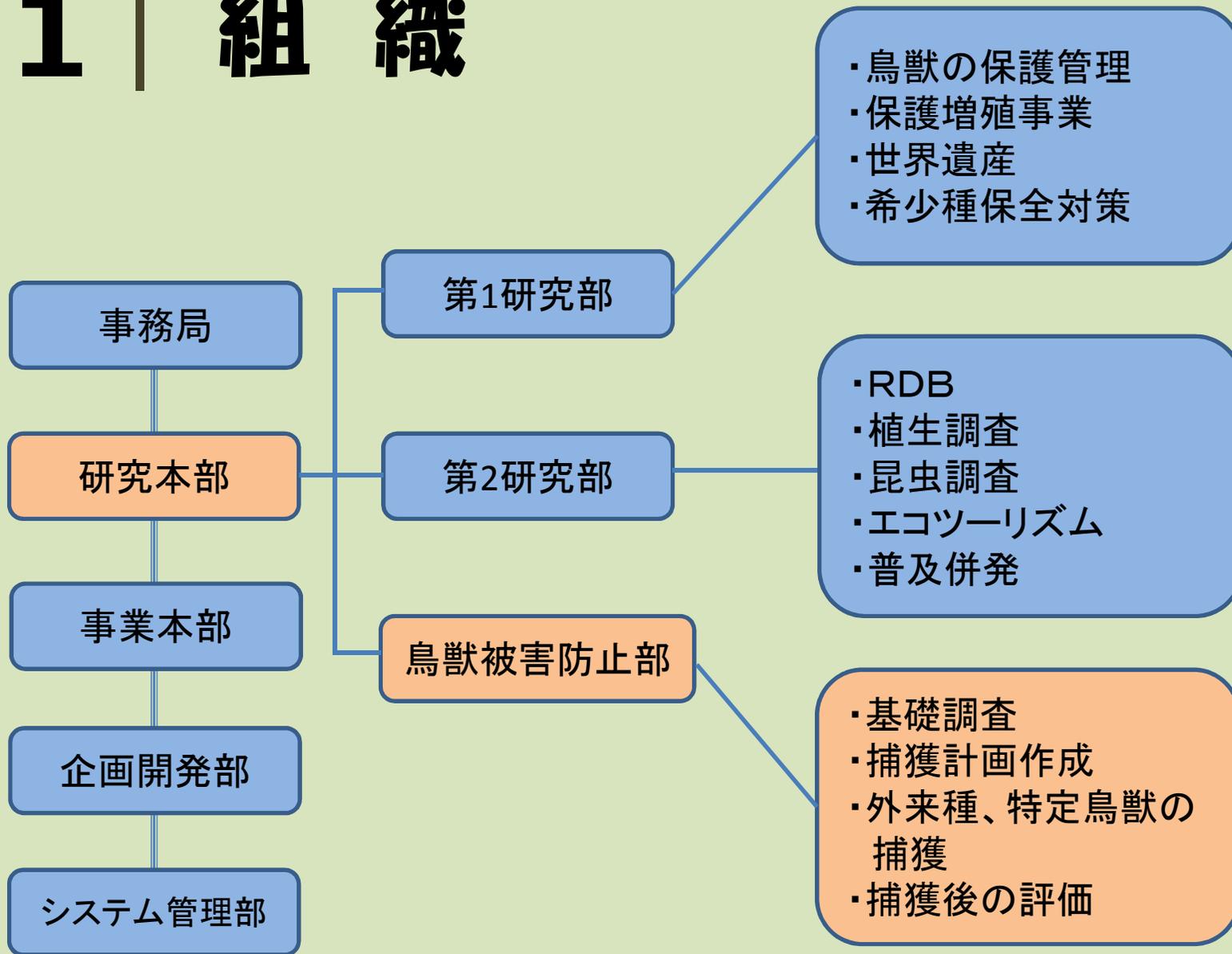
2012年(平成24年): 一般財団に移行

2013年(平成25年): 錦糸町に移転、組織改編のため

「鳥獣被害防止部」に変更



1 | 組織





1 | 自然研のスタンス

当センターは、第1研究部と鳥獣被害防止部が協力して、鳥獣保護管理に取り組んでいます。

そのため、調査、計画作成、実施(捕獲)、モニタリング調査、評価等のPDCAサイクルの全てを一貫して実施しています。

今回は、この中の「Do」、特に捕獲事業について説明致します。



1 | 鳥獣被害防止部

2010年に「野生鳥獣被害防止事業部」新設

現在、

部員6名(内1名は、神奈川県自然環境保全センターに派遣中)

環境省鳥獣保護管理捕獲コーディネータ:2名

環境省鳥獣保護管理プランナー:1名

農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー:2名



2 | 小笠原諸島におけるノヤギ・ ノブタ排除事業

経緯:過去に移入され野生化したヤギやブタにより、生態系への影響が甚大化した。在来植物の回復や外来種排除として、環境省・東京都事業として事業を開始。

経過:

1997年度～2003年度: 聳島・媒島・嫁島でのノヤギ排除完了

2004年度～2007年度: 兄島でのノヤギ排除(最終年度で完了)

2005年度～2007年度: 弟島でのノブタ排除(最終年度で完了)

2010年度～2012年度: 弟島でのノヤギ排除(最終年度で完了)

2010年度～ : 父島でのノヤギ排除開始



2 |

小笠原諸島におけるノヤギ・ フタ排除事業

**実施体制: 自然研、東京都猟友会小笠原支部会員
と協力**

役 割:

**自然研: 排除計画作成、排除作業、モニタリング
調査、次期計画作成、検討会開催**

猟友会員: 排除作業に協働



2 | 父島におけるノヤギ排除事例

発注者：環境省・東京都

成果：

2010年度：136頭

2011年度：525頭

2012年度：362頭

3年間合計：1,023頭





3 | 大台ヶ原におけるニホンジカ 個体数調整事業

経緯:「大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画」作成のための基礎調査から関わり、現在は個体数調整事業やモニタリング調査を行っている。

現状:「大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第3期）」に基づき、ニホンジカの個体数調整等を行い、大台ヶ原のニホンジカ保護管理に資することを目的とする。



3 | 大台ヶ原におけるニホンジカ 個体数調整事業

**実施体制：自然研、奈良県猟友会上北山村支部
と協力**

役 割：

**自然研：捕獲計画作成、捕獲作業、モニタリング
調査、次期計画作成、検討会開催**

猟友会：捕獲作業(銃器)



3 | 大台ヶ原におけるニホンジカ 個体数調整事業

発注者：近畿地方環境事務所

成果：

2010年度：70頭(目標70頭)

2011年度：59頭(目標62頭)

2012年度：97頭(目標97頭)

生息密度：

2009年度 ⇒ 2012年度

25.5頭/km² ⇒ 5.9頭/km²





4 | 群馬県赤城山におけるニホンジカ 個体数調整事業

経緯: 群馬県シカ適正管理計画による個体数調整

場所: 群馬県立赤城公園及び赤城山鳥獣保護区

経過: これまで、シカの捕獲を実施しておらず希少
種保護、交通事故防止等の目的で、2009年
度試験捕獲開始、2010年度から事業開始



4 | 個体数調整事業の配慮事項

地元観光業者との連携

→ 植生保護の一分野としての捕獲への理解

猟友会との連携

→ 3カ年事業終了後を見据えての体制作り

わなによる効率的な捕獲の実施(猟友会への技術移転)

→ 従来の手法に代わる手法の導入

鳥獣保護区、観光地での安全な作業手法の導入

→ 装薬銃を出来る限り使用しない手法の導入



4

群馬県赤城山におけるニホンジカ個体数調整事業

実施体制：自然研と群馬県富士見猟友会と協働

役 割：

自然研：捕獲計画作成、わな設置、モニタリング調査、捕獲手法検討、猟友会への技術移転

猟友会員：捕獲作業（捕獲個体の回収など）



4 | 赤城山での捕獲事業成果

	くくいわな	巻き狩り	その他	計
2010年度:	103頭	14頭		117頭
2011年度:	91頭	31頭		122頭
2012年度:	79頭	44頭	1頭	124頭

年間合計: 363頭(毎年の捕獲目標は、約100頭)



4 | 富士見猟友会への技術移転

- **くくいわなによる捕獲**

銃器による捕獲を中心に実施していたため、くくいわなの設置方法、捕獲効率向上のため移設方法等

- **自動通報システム**

くくいわなの見回り作業の省力化のための、システム導入、使用方法等



4 | 自動通報システムの開発・運用





5 | 人材派遣事業

神奈川県自然環境保全センターへ、ワイルド
ライフ・レンジャーとして職員を派遣

◆経緯

丹沢山系のニホンジカの保護管理を推進する
ために、高標高地域でのシカ捕獲を行う専門的
な捕獲能力を有する人材を確保するため

◆人数 3名



5 | 神奈川県ワイルドライフ・レンジャー

業務内容

ニホンジカ保護管理全般(管理捕獲、計画検討、生息調査、シカ捕獲の指導監督など)

自然研との関わり

**2012年度(平成24年度)から3名派遣開始
派遣職員及び派遣先とのシカ保護管理についての意見交換、アドバイスをを行っている**



6 | これまでの捕獲事業

1. 基本的には、これまで法的規制により捕獲が実施されていない地域での業務が多い
2. 地元猟友会と協力・協働し実施
3. 地元猟友会に技術移転
4. 計画作成やモニタリング調査も同時に実施し、今後の計画に反映させている
5. 計画性、科学性、効率を重視



6 | 被害対策のため人材育成

各種研修会へ講師派遣

当センターの各種専門職員が、

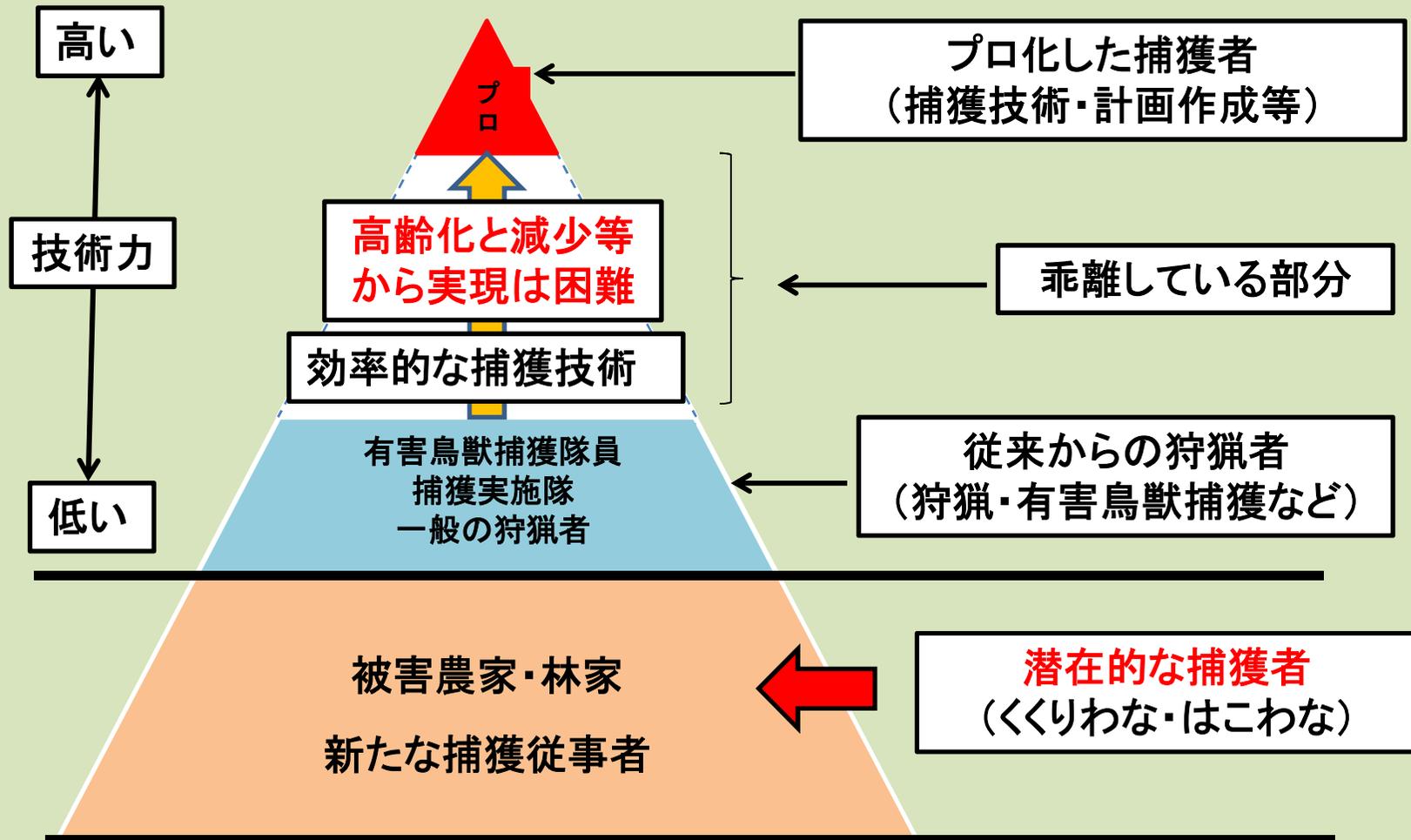
狩猟者

行政担当者(官庁・地方自治体など)

被害者(農林家・JA職員など) へ、

被害対策の一環としての捕獲の考え方や捕獲
方法の研修会を開催・実施

7 | 今後の捕獲従事者について





7 | 新しい捕獲事業展開について

イノシシ探索犬の育成、展開

これまで、自然研ではノヤギ探索犬、マンゲース探索犬を用い、捕獲成果を上げています。

2012年から耕作地に被害を出している特定個体を追跡し、寝屋・休息場を探索する犬を育成し、完成した。

今後、業務展開を行って行く予定。



ご清聴ありがとうございました。

